石州瓦

産地の市庁舎探る
江津市のシンボに250名

石州産地のお膝元、島根県江津市は11月18日、JR江津駅前の市民交流施設「江津ひと・まちプラザ（愛称・パレットごうつ）」で「モダニズム建築と江津市庁舎とを考える」と題したシンポジウムを開催し、パネルディスカッションでは「瓦産地の庁舎設計」などについて意見が交わされた。

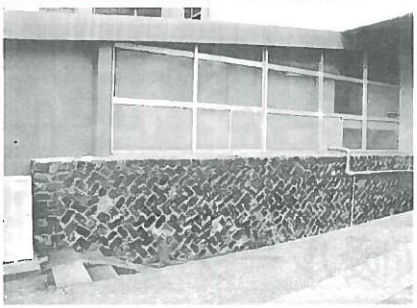
聴講者は建築を学ぶ学生や行政関係者、現役の建築士など県内外から250名。翌日は石州瓦の町並み見学会も実施。

市庁舎は1962年に竣工した陸屋根のRC造5階建ての建物だが、ピロティを市民広場とするなど、当時としては最新の技術で市と建築家と施工者が一つになって実現した庁舎」として語り継がれている。2015年には、「日本における モダン・ムーブメントの建築」として、日本の近代建築の再評価のための活動を行っているDOCOMOMO Japan作品に選定。設計者は故吉阪隆正氏（1917～1980）。現在、耐震改修による有効活用や新庁舎建設の可能性が検討されている。

パネルディスカッションでは、壁と屋根に28万枚の瓦が使われた島根県芸術文化センター（愛称＝グラントワ）を設計した建築家の内藤廣氏（東京大学名誉教授）らがパネラーとなり、現市庁舎や未来の市庁舎の設計についてそれぞれの思いを語った。内藤氏は吉阪氏に師事した関係がある。

この中では「現在の庁舎には瓦が葺かれてはいないものの、登り窯当時の耐火レンガが壁に使われているなど、産地への設計者の思いが表れている」や、「今後とも、産地の市庁舎という意識の中で建物づくりをしていくことが大事」などの意見も出た。

聴講した産地関係者からは、「屋根のみならず壁や床などにも石州瓦をより一層、有効活用していければ」との感想も聞かれた。



市庁舎に施工されている登り窯の内壁に使われていた耐火レンガ＝石州工組提供

鬼師の会

川越蔵の町で研修
影盛や小谷田瓦を探る

日本鬼師の会（菊地陽一郎会長＝菊間産地、正会員約40名）は11月19、20の両日、埼玉県川越市で第26回全国研修大会を開いた。同大会の埼玉開催は初で、約20名が参加したほか、地元の埼玉県西武瓦工事業組合も協力し、新井庄作組合長ら組合員も参加して交流を深めた。

研修大会では、同会初代会長の故小林章男氏が復元瓦を提供した県指定有形文化財の川越城本丸御殿や、市立博物館、重要伝統的建造物群保存地区の蔵の町並みを見学。

蔵棟の蔵には鬼師制作の鬼瓦と左官職による漆喰で形作られる影盛がのる屋根が多い。蔵造り資料館では、復元された影盛の前で埼玉西武の組合員がその施工について解説すると、鬼師たちは強い関心を示していた。

今大会の目玉の一つは、服部民俗資料館で展示された30点にも及ぶ小谷田瓦。明治から昭和にかけて、埼玉の入間市で製造されていた幻の瓦。設営を担当した埼玉の富岡唯史副会長が、伝統技法研究会の藤井禎夫氏（有フジイ瓦工業＝東京）ら関係者の協力を得て、同大会のために借りたもの。資料館では川越市文化財保護協会の服部安行会長が蔵の町の歴史などを講演、富岡副会長が小谷田瓦を解説。蔵の所有者とも交流した。

小谷田瓦を前に講演を聞く日本鬼師の会メンバーら

深谷産地

伝統の製法を実演
磨きで「自分の顔写る」

埼玉県の深谷瓦商工業協同組合（植竹一夫理事長、12社）と深谷市商工振興課は11月13～20日まで、深谷市の渋沢栄一生誕地「中の家」で「深谷の伝統瓦展」を開いた。

同展は奈良時代からの伝統産業である深谷瓦を後世に伝えるための企画。初日には伝統的な「たたら製法」で地元の粘土を練り、木型の上でヘラで叩いて瓦を成形していく工程を組合員の小林國章（57）、大澤幹雄（66）の両氏が実演して注目を集めた。

年配の見学者は、同行者に「仕上げの磨き工程で、万十の部分が鏡のようになって自分の顔が写るくらいになる」と説明していた。

期間中は、深谷瓦や瓦製造に使われた道具、当時の契約書などのほか、江戸時代の瓦の出荷水路図なども展示された。

深谷瓦を製造している組合員は現在3社。

深谷の伝統瓦展では手作りで実演。手前が大澤氏、奥が小林氏

業界人が手作り
鬼瓦を制作体験
新潟県瓦連青年部が企画

新潟県瓦工事業連合会青年部会（五十嵐祐太会長、20名）は11月19日、阿賀野市（安田瓦産地）の長場鬼瓦工場で鬼瓦制作体験を行った。昨今、市民を対象にした鬼瓦の型押しイベントは珍しくないが、同青年部会が企画したのは組合員向けの本格的な鬼瓦の手づくり。

五十嵐会長は今回の企画の狙いを、「業界人自らが瓦について深く知ることで、消費者など外向けに対しても説得力のある説明ができる」と語る。さらに「新潟県の組合員でも安田産地に来たことがなかったり、鬼師と接したことがない人もいる」とし、「交流の輪」を広げることも、もう一つの目的という。

参加者は青年部員9名と県瓦連の組合員の家族など5名で、手作り鬼瓦の制作はほとんどが初体験。長場鬼瓦工場三代目、長場龍也氏が指導した。

成形された鬼瓦の荒地は乾燥させて白地の状態で年を越し、来春にも五十嵐会長の工場で焼成される予定。同会長も安田瓦産地の窯元。

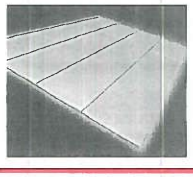
初の鬼瓦制作に挑む青年部員＝青年部会提供

横葺き「UMルーフ1」
植松グループが発売

静岡県沼津市で建築資材商社や製造業、建設業を展開する植松グループ（㈱植松と植松建興㈱、植松孝康社長）はこのほど、横葺き金属屋根材「UMルーフ1（ONE）」を発売した。

屋根材寸法は長さ3638㎜×幅275㎜で板厚は0・35㎜、1枚あたりの重量は4・9㎏。鋼板はJFEの「クラフトシリーズ」の「極み・MAX」。これはガルバリウム鋼板を基材に高強度、高耐候性ポリエステル系樹脂や特殊複合骨材を上塗の塗膜に使うなどした高耐候鋼板とされる。

同社では「和風の家に合う仕上げ加工にも対応し、断熱性や防音性にも優れる」。経済産業省ものづくり補助金の採択プロジェクトとして認定。



「UMルーフ1」

三州瓦の新CM
11月から東海3県で

愛知県陶器瓦工業組合（野口安廣理事長）は11月より、CBCラジオで放送中の三州瓦CMを変更した。CBCラジオは愛知県、岐阜県、三重県で放送されている。

同工組では11月よりCMを変更した。内容は九州でのCMに合わせて作られたもので、「現在の瓦屋根はずれたり崩れたりしない」「釘でしっかり固定編」、「瓦の住宅は構造がしっかりしていて耐震性に優れている（新築購入編）」ことをPRする内容。

ラジオCMは同工組ホームページからも聞くことができる。

季節を問わず
雨水をブロック。
屋根には気温に左右されない、より確実な防水が必要です。
ルーフラミテクトZ は特殊ポリマー止水テクノロジーにより、
低温時においても安定して高い止水性能を発揮し、
過酷な環境下でも長期間その性能を維持します。
ルーフラミテクトZ シリーズ　アスファルト不使用
次世代ルーフィングの標準グレード ルーフラミテクトZ 止水
遮熱機能をプラス ルーフラミテクトZ 遮熱タイプ 止水 遮熱
片面粘着でカッターレス ルーフラミテクトZ 粘着タイプ 止水 粘着
もっとECOで心地よい"くらし"のために。
セーレン株式会社
資料請求・資料の請求はこちらまで
ハウジング資材販売部
東京本社・大阪支社・二日市事業所（福井）
0120-12-1063